

2014年5月21日(水)

Luncheon Linguistics@語学研究所

## 現代朝鮮語の「言いさし」における節の構造とモダリティの関係について

総合国際学研究科 博士後期課程

黒島 規史 (くろしま・のりふみ)

### 1. 本発表の目的

本発表は、テンス形式を節内部に含みうるか、引用節を形成するか、また丁寧さを表す要素と共起できるかという観点から従属節の文らしさを考察し、節の文らしさと「言いさし」におけるモダリティ的意味との関係を示すことを目的とする。

これまでの朝鮮語における「言いさし」に関する研究としては、文法化や、(間)主観化((inter)subjectification))という観点からの研究などがあつた他、個別の接続語尾に関する研究の中で「言いさし」の用法が言及されることがあつた。しかし、これまでに「言いさし」の節の構造とモダリティ的意味の関係について論じた研究は、管見の限り見当たらない。

### 2. 「言いさし」について

白川博之(2009)では、主節を伴わずに従属節のみで現れる文(「さあ……あなただけみたいですけど。」(例は白川博之(2009:10)より))を「言いさし文」と呼んでいる。<sup>1</sup>その他、Evans, N. (2007)ではこれと類似した現象が様々な言語に存在していることを示し、これを *insubordination* としている。Evans, N. (2007:367)は *insubordination* を「形式的には一見明白な基準で従属節のように見えるものの慣習化された主節用法」<sup>2</sup>と定義する。

### 3. 研究対象及び研究方法

本発表では、-key(～するように<sup>3</sup>, ～く[形容詞]), -myense(～ながら), -se(～て), -nikka(～から), -nuntey(～のに), また引用語尾としての -myense, -nikka<sup>4</sup>を考察対象とする。用例は、2007年に公開された“21세기 세종계획 최종 성과물 (21世紀世宗計画最終成果物)”と、韓国映画の SCRIPT 80本から収集した用例を利用する。

---

<sup>1</sup> 白川博之(2009:11)は「言いさし文」を3種類のタイプに分けている。本発表では広義の意味で「言いさし」という術語を用いる。

<sup>2</sup> 日本語訳は堀江薫・プラシャント・パルデシ(2009:126)を引用する。

<sup>3</sup> 括弧内に、各形式が従属節として用いられるときの、だいたいの日本語の意味を挙げる。

<sup>4</sup> 引用節の構造については4.3で言及する。



(4) cip kekceng-un mala-yo.  
 家 心配-TOP やめる.IND-HON  
 appa-kkeyse nay aphathu-lo tuleo-ki-lo hay-ss-unikka....  
 父-NOM.HON わたし-GEN アパート-LOC 入ってくる-NMLZ-INST する-PST-nikka  
 家の心配はしないでください。  
 父がわたしのアパートに来ることになりましたから...。 【3BI00003】

(5) ne-n an-cani? ahop si-ka neme-ss-nunteny?  
 おまえ-TOP NEG-寝る-INTR 9 時-NOM 越える-PST-nunteny  
 おまえは寝ないのか？ 9時過ぎたんだぞ。 【CJ000254】

-myense と -key は過去テンス形式の現れ方が限定的であるのに対し、-nikka, -nunteny はテンス形式の結合に制限はない。比較的小さい節では過去テンス形式の現れ方が限定的であり、比較的大きい節では過去テンス形式の現れ方が任意であるといえることができる。

#### 4.2. 丁寧さの観点から見た文らしさと「言いさし」

節の文らしさと「言いさし」にはポライトネスも関係してくる。堀江薫・プラシャント・パルデシ (2009:122) の指摘を引用してみよう：

日本語の丁寧形は主節の文末のみならず、様々な従属度の従属節に広く生起可能である。一方、韓国語の上称形は基本的に主節の文末にその生起が限定され、-manによる副詞節以外は生起不可能である。<sup>8</sup>

この堀江薫・プラシャント・パルデシ (2009:122) の指摘は、日本語では必ずしもそうではないが、朝鮮語においては丁寧形の生起のしやすさが、文の終結度の一つの指標になりうるということを示唆している。このことは、김태엽 (1998) の指摘するところともつながってくる。김태엽 (1998)は、補助的な接続語尾から機能転用された終結語尾 '-e', '-ci', '-key', '-ko'<sup>9</sup>は、敬意の '-yo' が、いかなる制約もなく結合することを、一つの根拠として、終結語尾と認めるべきだとしている。しかし、-key の場合は「言いさし」で表す意味によって、'-yo' が付きうるかに差がある。朝鮮語の「言いさし」文の場合、-se, -nikka, -nunteny, -myense (引用語尾), -nikka (引用語尾) などのより文に近い節では、自由に '-yo' と共起しうるということが考えられるが、比較的小さい節である、-key は「言いさし」による '-yo' との共起が限定的であり、-myense の場合は '-yo' と共起しえない。-myense の例は (1) を参照のこと。-key は (2), (3) のような例では '-yo' と共起可能である。しかし、上で引用した 김태엽 (1998) の指摘とは矛盾するが、次のような例では '-yo' と、また過去テンス形式とも共起しがたいと考えられる：

<sup>8</sup> 現代朝鮮語の上称形 -pnita/-supnita を含むうるのは、[-pnita/-supnita]man という形を取って、「～ですが」という反意節を形成するときである。上称形を含まない場合は、-ciman になる。

<sup>9</sup> '-e' は非丁寧の叙述形、いわゆる半言(パンマル)形、'-ci' は「～だろう？、～するさ」などの意味を表す。'-ko' は接続語尾だが 김태엽 (1998) は終結語尾と見なしている。日本語の「～て」に当たる。

- (6) musun cis-iya. salam nolla-key.  
 なんの 仕業-COP.NHON 人 驚く-key  
 なにすんだよ。びっくりするじゃないか。(lit. 人が驚くように) 【CJ000258】

また, -se, -nikka は「言いさし」において, ほとんどの場合「理由・原因」を表し, そのような場合は '-yo' と共起しうる:

- (7)  
 A: way wus-e?  
 なぜ 笑う-IND  
 B: wuli-ka nemu talu-n ke kath-ase-yo.  
 わたしたち-NOM とても 違う-ATTR BN 同じだ-se-HON  
 A: なんて笑うんだ?  
 B: わたしたちが違いすぎて. 【2CJ00074】

しかし, (7) のような例とは異なり, 次のような例では '-yo' と共起しえない:

- (8) emememe ki-ka makhye-se.  
 あららら 気-NOM つまる-se  
 まったく, あきれた。(lit. 気がつまって) 【2CJ00079】

- (9) po-ca po-ca ha-nikka i casik-i  
 見る-COH 見る-COH する-nikka この やつ-NOM  
 こっちが黙ってれば, この野郎…(lit. 見よう, 見ようと思っていけば, こいつが)  
 【수퍼스타 김사용】

これら (8), (9) のような例は, 非生産的な用法である。また, -nuntey はほとんどの場合「言いさし」において '-yo' と共起しうるが, 次のように「感嘆」を表すような場合, 意味的に '-yo' と共起しにくい例も見いだせる。これは (8), (9) の -se, -nikka の例とは違い, 生産的な用法である:

- (10) ya ce akassi ettay? cwuki-nuntey.  
 おい あの 娘 どうだ.IND.NHON 殺す-nuntey  
 おい, あのこどうだ? まじヤバいわ。(lit. 殺すのだが) 【2CJ00063】

#### 4.3. 終止形を含む引用節と「言いさし」

引用節としての -myense, -nikka は, -ta (叙述形), -nya (疑問形), -ca (勧誘形), -la (命令形) などの終止形に, -myense, -nikka という引用語尾が接続した形である。本稿では, 語幹に直接付く形の語尾とこれら引用語尾を区別して扱う。-myense 単独では「～ながら」「～くせに」といった意味を表すのに対し, 引用節である場合, 誰かから聞いたことを聞き手に確認する「伝聞」の意味を表す。また, -nikka 単独では「理由」などの意味を表すのに対し, 引用節の場合, 聞き手への「念押し」<sup>10</sup> といった意味を表すようになる。

<sup>10</sup> 権在淑 (1992) 参照。

(11) ppalli ka-ya toynta-myense-yo?  
 はやく 行く-EMPH なる.QUOTE-myense-HON  
 はやく行かなきゃならないんですね?

【수퍼스타 감사용】

(12) na-to kukey kwungkumhata-nikka!  
 わたし-も それが 気になる.QUOTE-nikka  
 わたしもそれが気になるんだよ!

【목포는 항구다】

-myense, -nikkaは, -ta (叙述形), -nya (疑問形), -ca (勧誘形), -la (命令形)などの終止形を含み, 引用語尾として引用節を形成する. 終止形を節内に含むうる点で, 相対的に大きな節であると見ていいだろう.

## 5. 朝鮮語の「言いさし」における節の文らしさとモダリティ的意味

ここまでではテンスと丁寧さの観点から, また引用節との関係から「言いさし」の現れ方を見てきた. ここでは, 「言いさし」文の文らしさと, それの表すモーダルな意味との関係を考察する.

まず, -key の場合, 4.1の (2), (3), 4.2の (6) で見たように, 過去テンス形式も丁寧の '-yo' との共起も -key の意味により偏りがある. その他, 次の(13)のような話し手が聞き手の意図を問う場合, '-yo' との共起のみ可能であり:

(13) (立ち上がるチョンイン越しにピョンイル)

pyengil: ka-po-si-key-yo?  
 人名 行く.CVB-みる-HON-key-HON

cengin: ney.  
 人名 はい

ピョンイル: 行かれるんですか?

チョンイン: はい.

【편지】

例 (2), (3) のような話し手が聞き手の推測を尋ねる場合はテンス形式も '-yo' との共起が可能である. 一方, 例 (6) のような, -key で表される事態になったことや, 感情を引き起こしたことを話し手が聞き手に対して批難する例では, 過去テンス形式とも '-yo' と共起しえない. このように, 過去テンス形式あるいは終止形を節内に含むか, 丁寧の '-yo' と共起しうるかという基準で節の大きさ, つまり文らしさを規定するならば, 節が文らしいほど, 聞き手目当てのモダリティを表し, 節が小さく文らしさに欠けるほど, 「表出」<sup>11</sup>とでもいいうるようなモダリティ的意味を伴う. つまり, 話者が置かれた状況に対して, 聞き手への伝達を意図することなく, 心的な態度を表出させるかのように述べるわけである.

このような節の大きさと, モダリティ的意味の関係を表にしたのが, 次の表 1 である:

<sup>11</sup> 仁田義雄 (1991:27) では「表出」を「話し手の意志や希望といった自らの心的な情意を, 取り立てて他者への伝達を意図することなく発する」といった発話・伝達の態度を表したものである」と述べている. 本稿ではこの「表出」の概念を援用するものである.

表 1 節の大きさ (=文らしさ) とモダリティ的意味の関係

	例文番号	テンス形式 -ass-/-ess-	丁寧さ -yo	引用 終止形	
(a) -key	(6)	-	-	—	表出モダリティ
(a) -se	(8)	-	-	—	
(a) -nikka	(9)	-	-	—	
(a) -nuntey	(10)	-	?	—	
-myense	(1)	+	-	—	対事態モダリティ
(b) -key	(13)	-	+	—	
(b) -se	(7)	-	+	—	
(b) -nikka	(4)	+	+	—	
(b) -nuntey	(5)	+	+	—	対聞き手モダリティ
(c) -key	(2), (3)	+	+	—	
-myense (引用語尾)	(11)	—	+	+	
-nikka (引用語尾)	(12)	—	+	+	

表 1 中の“+”は上記の文法形式と共起可能なことを，“-”は反対に共起不可能なことを表している。左枠では、同形式であっても、それぞれの語尾が共起する文法形式との関係から、(a), (b), (c)を付けて区別をした。どこからどこまでか、どのようなモダリティ的意味を表しうるか、はつきりとは線を引き難いが、だいたいにおいて、丁寧さの‘-yo’と共起しないものは「表出モダリティ」を表し、引用節を含まないものは「対事態モダリティ」を、含むものは「対聞き手モダリティ」を表していると見ることができる。

(a) -se, (a) -nikkaは、「表出モダリティ」を表す場合は、上述したように非生産的な用法であり、あくまでも中心的な用法は「言いさし」において「理由・原因」を表す (b) -se, (b) -nikkaのほうである。このことは、もともと比較的にな大きな節である -se, -nikka は、「表出モダリティ」になり難いということを物語っている。

(a) -nunteyは、上述の通り、生産的な用法であり、意味的には丁寧さの‘-yo’とはあまり共起しないものの、共起自体が不可能なわけではない。その意味で表中では“?”としてある。

(b) -keyは聞き手のなんらかの行動を捉えて、相手の意図を問うといった点で、対事態的な性格が強い。

4.3で上述したように、-myense (引用語尾)は、誰かから聞いたことを聞き手に確認する「伝聞」の意味を、-nikka (引用語尾)は聞き手への「念押し」といった意味を表し、対聞き手の性格が強いと考えられる。

## 6. まとめと今後の展望

本発表では現代朝鮮語における「言いさし」の節の大きさ、つまり文らしさと、それが表すモダリティの意味に一定の関係があることを見た。しかし、どのような形式の、どのような用法を「言いさし」と認めるか、その基準にまだ曖昧な部分が残っており、意味的な分析も十分にせなかつた。これは今後の課題としたい。

節の構造とモダリティの関係を扱った研究は管見の限り日本語の研究においても見当たらない。様々な言語における同様の現象を比較した研究として Evans, N. (2007), 風間伸次郎 (2012) があるが、本発表の指摘は、現代朝鮮語のみに限らず、他の言語における従属節の主節化に関する研究にも寄与するところがあるかもしれない。

### 略号一覧

ACC	accusative	CVB	converb	INTR	interrogative	PST	past
ATTR	attributive	EMPH	emphatic	LOC	locative	QUOT	quotative
BN	bound noun	GEN	genitive	N-	non-	TOP	topic
COND	conditional	HON	honorific	NGV	negative		
COH	cohortative	IND	indicative	NMLZ	nominalization		
COP	copula	INST	instrumental	NOM	nominative		

### 引用文献

- Evans, Nicholas (2007) 'Insubordination and its uses', *Finiteness*, ed. by Irina Nikolaeva, Oxford: Oxford University Press
- 堀江薫・プラシャント・パルデシ (2009) 『言語のタイポロジー——認知類型論のアプローチ——』, 東京: 研究社
- 風間伸次郎 (2012) 「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」, 『北方言語研究』2, 北海道大学大学院文学研究科
- 김태엽 (1998) '국어 비종결어미의 종결어미화에 대하여', "언어학" 제22호, 한국언어학회
- 국립국어원 (2005) "외국인을 위한 한국어 문법2 —용법 편", 서울: 커뮤니케이션북스, (韓国・国立国語院 (2012) 『標準韓国語文法辞典』, 東京: アルク)
- 権在淑 (1992) 「現代朝鮮語の用言の接続形-니까について」, 『Lingua』第3号, 上智大学
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』, 東京: ひつじ書房
- 白川博之 (2009) 『「言いさし文」の研究』, 東京: くろしお出版

### 用例を収集した資料

- 문화관광부・국립국어원 (2007) CD-ROM "21세기 세종계획 최종 성과물"
- 韓国映画スクリプト80本(タイトル省略)